

## 愛は、すべてを完成させる「絆」

学院長 嶋田 順好

もうすぐ東日本大震災から10年目を迎えようとしています。2011年の「今年の漢字」には「絆」が選ばれました。圧倒的な津波の威力に町全体が呑み込まれ、原発事故による放射能汚染で故郷を喪失した人々の、このままだったら、散り散りばらばらにされてしまうという絶望と深い孤立感を癒す合言葉が「絆」だったのではないのでしょうか。ワンピースの主人公ルフィの名言に「おれは、助けてもらわねえと生きていけねえ自信がある!!」という言葉がありますが、被災された方々が身に染みて思い知らされたことは、人が一人では生きていけない存在であるという厳粛な事実だったのではないのでしょうか。だからこそ「絆」を重んじ、「絆」を回復することこそが、何より大切なことと皆が思ったに違いありません。

ところで、コロサイの信徒への手紙3章14節では「愛は、すべてを完成させるきずなです」と言われます。もし皆さんが、「この『愛』を別な言葉に置き換えてみてください」と問われたら、どんな言葉を思い浮かべるのでしょうか。きっと「優しさ」、「慕わしさ」、「親切」など、多くは人間の思いを表現する言葉が脳裏に浮かんでくるのではないのでしょうか。しかしながら、旧約聖書で「愛」を意味する代表的な言葉の一つである「ヘセド」（ヘブライ語）には、「契約（約束）への愛」という意味が込められているのです。それをういて訳せば、「契約への愛は、すべてを完成させるきずなです」となります。

突然、「契約への愛」などと言われても、ピンと来ない人が多いかもしれません。契約という言葉が感情的な思いを告げるよりも、意志的、法的な行為を意味するからです。しかし、愛はただ単に感情的なものではなく意志的な側面を持つことを理解することは大切なことです。ことにこの場合の契約とは「神が人と交わした契約」のことを指しています。したがって「契約への愛」とは、神が、人と交わした契約を絶対に裏切ることなく最後まで守り貫く強い意志と真実な姿勢を指し、それこそが「絆」だと言われているのです。英語で「契約」のことを **contract** と言います。欧米は契約社会ですから厳格に契約を履行することが求められます。契約を破れば裁判沙汰になるのです。しかし、裁判沙汰になるということは、ある意味厳格な契約社会でありながらも、契約を守らない人々がいるということでしょう。ところが、神が人と交わした契約は、**contract** とは言われず、**covenant** と言われます。この言葉の意味は、まさに「決して裏切られ、破られることがない神の契約」ということなのです。

一般の日本人にとっては、愛と契約が密接不可分の関係にあると言われても、にわかにはなるほどと納得できないかもしれません。しかしそのことを誰もがよく理解できるように示してくれた短編小説があります。きっと皆さんも一度は読んだことがあるはずの太宰治の『走れメロス』です。この短編こそは、友を信じて命がけの契約（約束）を貫く愛の物語と言えるでしょう。

牧人メロスはシラクス市の王ディオニスの邪知暴虐ぶりに立腹し、王を成敗すべく王宮に向かい捕えられます。王から死罪を言い渡されますが、妹の結婚式をすませて必ず戻るから三日間の猶予をくれと願い出るので、メロスの言葉を信じられない王に、友人セレニティウスを人質として託します。結婚を終えたあと、メロスは一路、王宮への道を急ぎます。しかし濁流に阻まれ、山賊に襲われ、灼熱の太陽に苦しめられ、肉体の限界に至ります。しかも、様々な心の葛藤、誘惑も押し寄せてきます。にもかかわらず、最後の力を振り絞り、自分を信じてくれた友との約束を貫くために「走れ!!メロス」と言い聞かせ、約束の時刻の直前に「私だ、刑事！ 殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、ここにいる！」と叫びながら磔台に釣り上げられていく友にかじりつきます。メロスとセレニティウスの互いを信じあう愛に満ちた友情の絆に触れた王は回心し、「わしをも、仲間に入れてくれないか」と願い出るので、

わたしたちもまた東日本大震災10年の節目に「愛は、すべてを完成させるきずなです」との御言葉を心に刻み、最後まで約束を果たす神の愛にならって、園児、生徒、学生、院生、同僚に信実な愛を貫く者として、強固な絆で結ばれた学び舎を形作る者でありたいと願います。